

環境調査結果のお知らせ

令和6年8月24日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

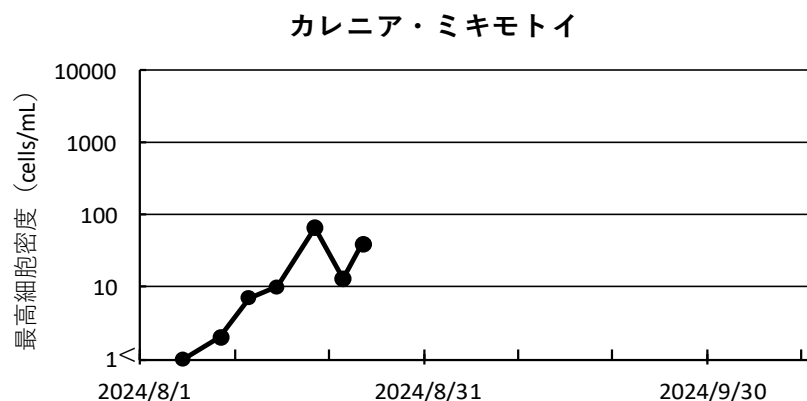
検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で39 cells/mL、シャットネラ属が最高で13 cells/mL、**タカヤマ属が最高で61,000 cells/mL確認されました。福良でタカヤマ属が濃密な赤潮となっております。養殖漁場にも拡散しつつあります。当該プランクトンは魚類にとって有害であり、10,000 cells/mL以上で漁業被害が発生する可能性がありますので十分注意してください。**

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

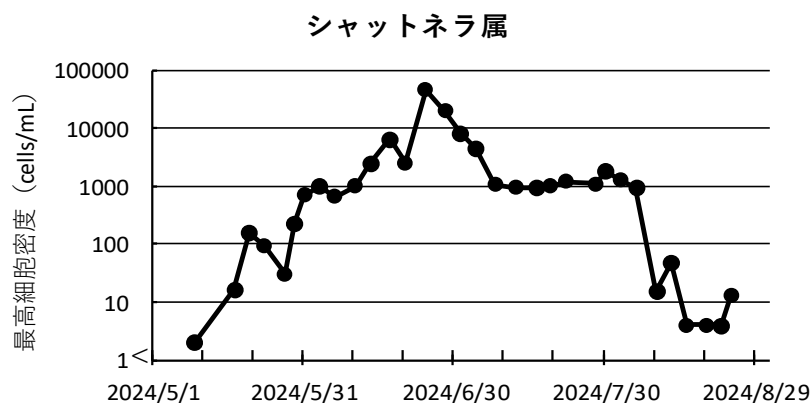
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
A 鳴無 (3m) 【09:25】	0	32.3	27.7	7.9	0	0	1	220
	2	32.0	31.1	9.3	0	0	150	6,700
	5	30.3	31.5	2.4	39	2	12	80
	底層 9	29.6	31.4	0.8	-	-	0	-
B 中学校前 (3.2m) 【09:35】	0	32.1	27.0	8.2	0	0	90	410
	2	31.8	31.0	10.2	0	0	580	4,100
	5	30.1	31.5	2.8	17	6	80	200
	10	29.4	31.5	0.6	0	0	0	11
底層 12.5	29.0	31.4	0.1	0	0	1	3	
C 目ノクソ (2.2m) 【09:43】	0	32.1	26.8	8.2	0	0	220	200
	2	31.4	31.1	10.5	0	6	10,800	1,250
	5	30.2	31.3	3.6	4	4	190	300
	10	29.6	31.4	1.7	1	0	2	20
底層 15.5	28.5	31.5	0.0	0	0	0	0	
D 光松 (2.5m) 【10:12】	0	32.1	28.5	9.5	0	0	370	160
	2	31.0	30.9	10.1	0	10	7,300	340
	5	30.0	31.3	4.2	3	0	560	150
	10	29.5	31.5	3.4	1	0	2	12
底層 17	29.1	31.7	3.1	0	0	2	9	
E 大鹿 (4.5m) 【10:24】	0	32.3	27.5	9.1	0	0	300	160
	2	31.0	30.7	8.9	0	2	1,680	380
	5	29.8	31.4	5.0	4	0	210	160
	10	29.6	31.5	5.3	3	0	50	190
底層 17	29.1	31.7	3.6	0	0	0	1	
F 水試小割前 (4.5m) 【10:46】	0	31.7	29.5	8.4	0	0	24	620
	2	30.5	30.9	7.6	0	0	60	340
	5	29.7	31.5	5.9	0	0	740	280
	底層 9	29.1	31.9	6.2	-	-	0	-

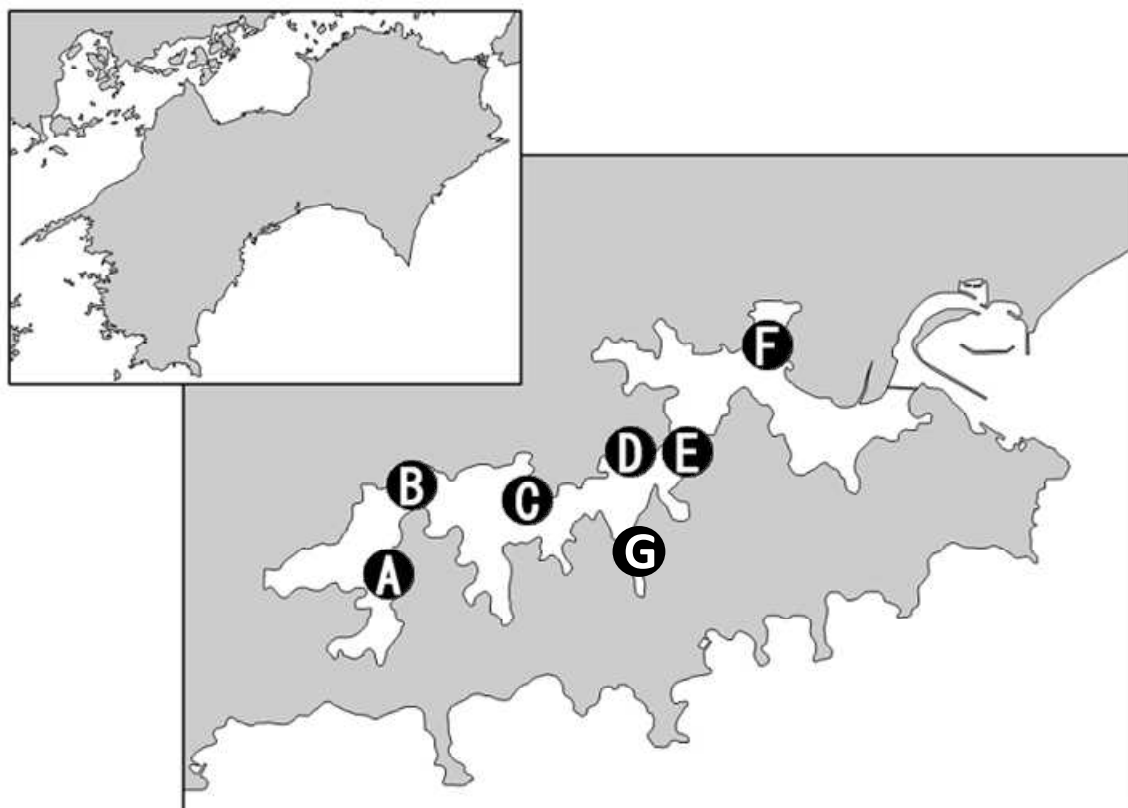
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
G 福良 (0.5m) 【09:54】	0	31.9	27.5	13.6	0	0	61,000	80
	2	32.2	30.6	14.8	1	13	15,600	100
	5	30.3	31.3	3.2	12	6	110	4
	底層 10	29.5	31.5	0.4	0	0	2	7
	12	29.1	31.4	0.1	0	0	3	2

令和6年度 浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移





- A: 鳴無 E: 大鹿
 B: 中学校前 F: 水試小割前
 C: 目ノクソ G: 福良
 D: 光松

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrioides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。